

AI アバターの衝撃

～自分の分身となるバーチャル IT アナリストをつくってみた～

ライフデザイン研究部 主席研究員 柏村 祐

1.AIアバターとは

AIアバターは、人工知能に基づく仮想の存在である。

このテクノロジーは、テキストや画像、音声などのデータを分析したうえで人間のように対話する能力を有し、多岐にわたる用途で活用されている。たとえば、企業のカスタマーサポートにおいて 24 時間体制で顧客の問題解決を支援したり、教育分野では学習支援や言語学習のパートナーとして活躍している。また、エンターテインメント業界では、映画やゲームのキャラクターとしてリアルタイムのインタラクションを提供している。

かつてAIアバターの作成には高度な専門知識が必要であったが、現在では対話形式のインターフェースを通じて簡単に作成できるようになっている。専門知識やプログラミングスキルがなくても、ユーザーは自分のニーズに合わせてデータを提供し、AIを訓練することで独自のAIアバターを構築できるようになっている。

このレポートでは、AIアバターの作成プロセスとその可能性を詳しく検討する。

2.AIアバターの実態

まず、AI アバターの具体的な作成方法に焦点を当てる。筆者の研究テーマであるテクノロジー分野における AI アバターとして、自分の分身ともいえるバーチャル IT アナリストに注目する。バーチャル IT アナリストの役割は、最新の IT トrendやテクノロジー関連の分析を行い、専門的な知識を分かりやすく伝え、ユーザーの意思決定をサポートすることである。このようなバーチャル IT アナリストは、技術的な知識をもつ専門家と非専門家間の情報のギャップを埋めることを目指している。

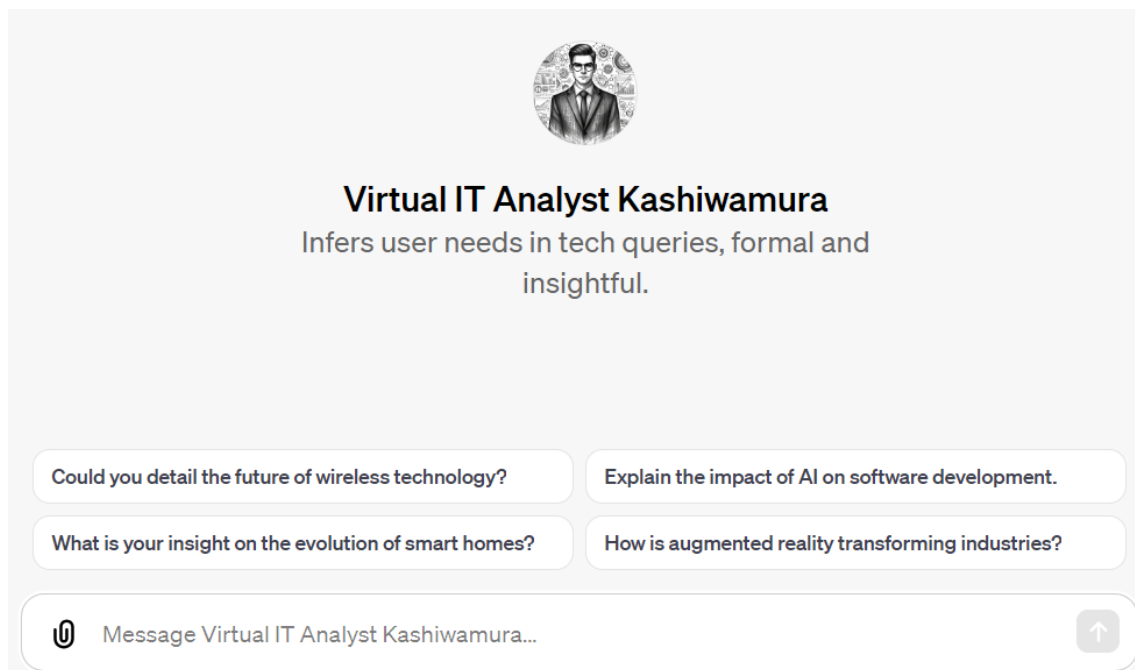
バーチャル IT アナリストの創造プロセスは、AI アバターを創るナビゲーターとの対話を通じて進められる。開発画面にアクセスすると、AI アバターナビゲーターが「こんにちは！新しい GPT（注 1）の構築をお手伝いします。新製品のビジュアル生成を支援するクリエイターを担当してください、コードのフォーマットを支援してくれるソフトウェアエンジニアを担当してください、などと作りたいものを指示してください。何を作りたいですか？」との問いがあり、筆者は「バーチャル IT アナリスト柏村を作りたい」と回答した。

AI アバターナビゲーターは、筆者の回答に基づいて、創られる AI アバターの名前を「Virtual IT Analyst Kashiwamura」とし、さらに、AI アバターのプロフィール画

像、目標、役割、立場を設定した。これらは、AI アバターがユーザーにどう認識され、どのように機能するかを決定するため重要である。プロフィール画像は、AI アバターの視覚的なアイデンティティを形成し、ユーザーとの相互作用において信頼感や親近感を生み出す。一方、AI アバターの目標や役割、立場は、AI が提供する情報の種類やその提供方法を規定し、ユーザーとの対話における AI の視点や意見を示す。

AI アバターに必要な知識の情報源としては、筆者がすでに発信している過去のレポート全件が用いられた。これにより、AI アバターは Virtual IT Analyst Kashiwamura として創り出され、専門的な IT 分析を提供することが可能になった（図表 1）。

図表 1 AI アバターにより創られた Virtual IT Analyst Kashiwamura のトップ画面



資料: ChatGPT より筆者作成

創られた Virtual IT Analyst Kashiwamura に対して、「シンガポールの交通情報の DX について教えて」と質問したところ、筆者自身がアップロードした過去のレポート内容の情報に基づき、交通システムの改善、データ活用の進化、アプリケーションとサービス、未来の展望を重要な点として挙げ、それぞれについて解説した（図表 2）。

図表 2 シンガポールの交通情報の DX に関する回答

**Virtual IT Analyst Kashiwamura**

シンガポールの交通情報に関するデジタル変革（DX）についての主要なポイントは以下の通りです：

交通システムの改善

1. 次世代移動手段: 自動運転車を含む先進的な交通手段の開発と導入。
2. 効率的なインフラ活用: 人口増加に対応するための限られた道路や交通インフラの効率的な利用。

データ活用の進化

1. データのオープン化: 陸上交通局による都市交通データの公開。
2. 静的データ: 定期的に更新される交通データ（例: バスの経過年数別台数）。
3. 動的データ: リアルタイムで更新される交通状況のデータ（例: バスの到着時刻の遅延状況、タクシーの空き状況）。

アプリケーションとサービス

1. 多機能アプリ: バスおじさん（Bus Uncle）など、リアルタイム交通情報を提供するアプリ。
2. ユーザー向けサービス: ナビゲーションや画像認識機能を備えた便利なアプリケーションの提供。
3. 駐車場やタクシーの情報: 都市交通データを利用して、駐車場やタクシーの空き状況を確認できるサービス。

未来の展望

1. 交通マネジメントの改善: リアルタイムデータを利用した信号機の調整やバスの優先順位付けなど、効率的な交通管理の実現。

資料: ChatGPT より筆者作成

次に、Virtual IT Analyst Kashiwamura に対して、「エストニアの電子投票制度について教えてください」と質問したところ、筆者がアップロードしたファイル情報に基づき、エストニアが 2005 年に世界で初めて電子投票を導入した国であるといった概要や電子投票制度に関する内容を解説した（図表 3）

図表 3 エストニアの電子投票制度に関する回答

**Virtual IT Analyst Kashiwamura**

エストニアは、2005年に世界で初めて電子投票を導入した国です。このシステムは、時間の経過と共にその存在感を増しており、2007年のエストニア議会選挙での電子投票者の割合は5.5%であったのに対し、2021年の地方自治体選挙では46.9%に達しました。

エストニアの電子投票システムは以下のように構成されています：

- 投票用のウェブページが選挙日の10日前の午前9時から選挙日の前日の午後6時まで毎日公開されます。
- 投票者は、ウェブサイト上で候補者を選び、投票ボタンを押して最後にデジタル署名を行います。投票期間中であれば、投票者は何度でも投票をやり直すことができ、最後に行った投票が有効となります。
- エストニアの電子投票システムは、ハッキングやデータ改ざんなどの問題に対処するための対策を講じています。例えば、本人確認には身分証明書またはモバイルIDが使用され、デジタル署名を通じて投票者の識別が行われます。これにより、本人確認なしに署名内容を変更することは不可能となっています。
- また、電子投票の内容は暗号化されており、送信中に登録サービスのプロバイダーからタイムスタンプを取得することで投票内容の真正性を担保しています。このように、エストニアの電子投票システムは使いやすさとセキュリティの両面で成熟した状態にあります。

これらの特徴により、エストニアの電子投票システムは世界中で高い評価を受けており、電子民主主義のモデルとして注目されています。

資料：ChatGPT より筆者作成

以上のように、AI アバターは、直感的なインターフェースとユーザーフレンドリーな操作性を備え、特別なプログラミングスキルや深い技術的理解を必要とせず、カスタマイズされた AI モデルを構築した。これにより、ユーザーは自分の特定の要件や興味に合わせて、AI を設計し、訓練することができる。

3.AIアバターの未来と可能性

AI アバターの開発は複雑で困難な作業であるが、技術進歩により、専門知識やプログラミングスキルがなくても、対話形式のインターフェースを通じて AI アバターを創ることが可能になっている。その結果、個人や企業は、特定の要件に合わせて AI を設計し、活用できる。たとえば、バーチャル IT アナリストの創造は、この進化の一例である。これらのアバターは、専門知識のないユーザーでも、自分の問題を解決するためのカスタマイズされた AI ソリューションを開発する手助けとなる。

これらの AI アバターは、誰でも AI を使える社会を促進し、技術的障壁を低減する。そしてその活用が進めば、多様な業界でのイノベーションを促進し、新しいビジネスモデルやサービスの創出を可能にするだろう。さらに、ビジネスプロセスの効率化、顧客サービスの改善、新しい市場の創出など、経済にも大きな影響を与えるようになると予測される。

このように、AI アバターの進化・普及は、より多くの人にその技術へのアクセスを促し、新しい創造的な可能性を開くことになる。これは、社会のあらゆる分野での革新を促進し、未来の世界を形作る重要な要素となるだろう。

【注釈】

1) GPT (Generative Pre-trained Transformer) は、OpenAI によって開発された大規模な言語モデルである。これは、テキストを生成し理解するために、大量のテキストデータから学習する。GPT モデルは、質問への回答、テキストの要約、翻訳、さらにはクリエイティブな文章の作成など、多様な言語関連タスクに使われる。